

（ 自由市場「かげろう座 2004」開催される ）

5月30日、自由市場「かげろう座 2004」（主催：かげろう座実行委員会、後援：五條市など）が、五條市新町通りなど旧街道筋で開催された。

新町通りは、五條の町家が立ち並び、かつては宿場町として栄えたところ。町家は、ほとんどが「つし（屋根裏の物置）」のある2階建て、ひさしは低い位置で揃い、壁面や軒裏は漆喰で塗りこめであるのが特徴。

「かげろう座」は、昔の景観を残している町並みを多くの人たちに見てもらおうと、平成6年より開催されているイベント。今年は狭い通りに、市内を始め県内外から約4万7千人が訪れて、往年の賑わいを感じさせた。

JR五條駅から吉野川沿いにかけて約3kmの旧街道筋の軒先に、ガラス細工、アクセサリー、木工品、手芸品、陶器、農産物、地酒などの約450か店がならんだ。軒先の通りを、ストリートミュージシャン、チンドン屋、南京玉すだれなどが練り歩き、人だかりを作っていた。また、ステージではフォークソング、女流剣劇、和太鼓などが催さ

れ、ひと昔前が思い出された。

かげろう座実行委員長の山本陽一さんは、「訪れた人が物品の買い物を通じて、ふれあい、五條という街を知ってもらうことが大事。是非リピーターを増やしていきたい」と話していた。

（上田）



自由市場「かげろう座 2004」のにぎわい

（ 唐招提寺「鑑真和上舍利会開山忌」 ）

開山忌は、鑑真和上の命日（旧暦5月6日）にあわせて毎年新暦の6月5日、6日、7日に営まれている。6月5日は朝から御影堂で献香、献茶が行なわれ、午後から講堂で鑑真の遺徳をしのぶ法要が執り行われた。

開山忌にあわせて、御影堂（旧興福寺一乗院門跡の建物を移築）を特別公開。鑑真和上坐像（国宝）開扉とともに、東山魁夷画伯が揮毫奉納された障壁画も公開された。

鑑真和上坐像は、和上が静かに瞑想し端座する姿を写生をもとに作ったと伝えられる、奈良時代肖像彫刻の最高傑作である。

障壁画は、日本の風土の山と海を群青色と緑青の岩絵具で描いた「山雲」「濤声」、和上の故郷中国の壮大な風景を墨一色で描いた「揚州薰風」「桂林月宵」。和上坐像の厨子内部には「瑞光」が描かれている。

現在、唐招提寺では、わが国に残る最大の天平建築である金堂（国宝）の本格的な解体修理が平成12年から約10年をかけて行なわれている。

（上田）



唐招提寺・金堂全景

（現在、平成大修理解体中）